

第3章 計画の推進

1. 計画推進と進捗評価の考え方

(1) 計画推進の考え方

観光振興とは、地域の魅力に触れ、地域の人と交流することで、来訪者と地域住民が感動や地域への共感を生み出す、ヒトの心を動かす事業です。

ヒトの心を動かすためには、受け入れ側である地域と来訪者の間に、地域に対する価値の共感や共鳴を起こさなければなりません。今後は、ヒトの感性に触れる、感性を刺激する、そのような観光振興の推進が問われていきます。

共感や共鳴を生むための観光振興の推進においては、まずは受け入れ側となる、荒尾市民自らが自分達の住む地域に誇りを持ち、是非、観に来て欲しいと発信しなければなりません。まずは地域側から価値に対する共感や共鳴を促すことが必要になります。

そのためには、本計画の実行に関わる関係者が常に事業を進めるのは自分たちであるという思いを共有し、「無いもの・足りないもの」を重視するのではなく、「今あるもの」をどう活かしていくかを念頭において、全員の力を結集しなければならないと考えます。

立場や関係機関などの垣根を越えて、全員が荒尾に住む市民の一人であるという意識を持ち、今後の荒尾市の観光振興の在り方について話し合う、そのような意識の変革が問われます。また、現代の消費行動の意思決定の中心は女性層であり、これからのマーケット戦略には女性の琴線に触れることが重要な要素の一つです。今後の観光振興の推進においては、女性の意見や行動力を最大限活用することが必要となります。

(2) 進捗評価の考え方

立てた計画を現実のものにしていくためには、施策の進捗状況や、目標に向かった行動が行われているかについて常にチェックをしていく必要があります。また一方、マーケットのニーズは時代とともに変わっていきます。施策の中身がマーケットのニーズにかなっているのかについても、点検し変更するといった柔軟な取組が求められます。

施策の実践者自らが、Plan（計画）→Do（実行）→Check（評価）→Action（見直し）サイクルを認識しつつ常に自己チェックを行いながら推進していくことが必要です。

2. それぞれの役割

観光振興においては、行政や観光関連事業者のみならず、その他の産業の関係者そして市民も深く関わり、これらが一体となって取り組むことが重要です。関係者それぞれが「できること」を考えて、荒尾市の新たな魅力のために共に歩むことが必要です。

市民の役割

市民は、継続的な観光振興のための地域づくりの主體的な役割を担います。地域を深く掘り下げ、その魅力を発信する、また、実際の来訪者への積極的なおもてなしなど、観光振興の推進における中心的な担い手となることが期待されます。

関係団体の役割

一般企業、農業関係団体、漁業関係団体、加工業関係団体、文化・スポーツ関係団体等は、これまでの慣例にとらわれず、自分たちにできることを意識することで、それぞれの持つ得意分野を活かす形で、観光振興の推進における様々な取組に参画することが望まれます。

商工会議所の役割

商工会議所は、地域資源を活かした新しい観光土産品の開発、飲食店の活性化など、会員組織や部会組織などとともに積極的に連携することで、それぞれが持つノウハウを活かした荒尾市における観光と交流の推進の一翼を担います。

観光協会の役割

各施策を包括的にまとめ、荒尾市の観光と交流のコーディネーター役を担います。観光振興の推進における関係者（市民・関係団体・商工会議所・行政）をつなげ、互いの強みを活かすことで戦略的な観光振興の推進を図ります。また、荒尾市の観光におけるスポークスマンとしての情報の受発信を積極的に行う役割も担います。

行政の役割

事業推進の牽引役として、人的・財政的な面をサポートします。民間にできることは任せ、初動時の事業を円滑に進める先導的な役割を担い関係者を常に支えることが期待されます。